

## 巻頭言

## 観光資源

杉山英俊

コロナによる規制が解除されて、円安の影響もあり、外国人観光客もコロナ前の水準を上回ったようです。旅行業界や観光客相手の商業施設などは、ようやくホッと一息できた事でしょう。しかし、外国人観光客が増えると、問題も増えるもの。文化や習慣の違いからか、昔の「農協の観光軍団」のように、旅の恥はかき捨て的な事なのか、様々なトラブルが話題になるのは悲しい事です。

新しいテーマパークやショッピングモールなどの商業施設は、最初から大勢の観光客の集客を目的に作られています。昔ながらの観光地や地元根付いた商店街などは、急激に増加した来訪者に戸惑い、対応しきれない事も多いのではないのでしょうか。

観光資源、特に自然や歴史的な建造物などは、信仰の対象であったり、その土地のアイデンティティの象徴であり、観光資源であると同時に、大切に守るべき物でもあります。それを楽しませてもらう人は、まわりに迷惑をかけず、その土地の情緒あふれる雰囲気や敬意を敬いながら静かに楽しむというマナーを守ることがあります。コンビニの上に富士山が乗って見えると話題になり人が集まりすぎて、道路から強引に撮影するなど周囲に大変迷惑になっていると、富士山が見えないように目隠しフェンスが設置されましたが、醜悪な黒いシートが景観を破壊する、悲しい選択ですね。その問題を受けてか、あるデベロッパーが富士見通からの眺望に配慮して、完成間際のマンション工事を中止して取り壊すことを発表しました。それはそれで英断かとは思いますが、計画段階で配慮出来なかったのかなと疑問にも思います。

雑誌やテレビなどでは「穴場紹介」の番組が人気で、「知る人ぞ知る隠れた穴場」がどんどん少なくなってきました。最近では特にSNSの普及で、誰かが綺麗な写真を投稿すると、あっという間に世界中にその情報が拡散され、「なぜこんな場所に？」と言う所にも人が押し寄せて、閑静な住宅地の小さな店の前にも長い行列を作って、同じ写真を撮ろうと必死になります。もちろん外国人観光客だけが悪いのではなく、日本人観光客も同様で、線路に身を乗り出して鉄道写真を撮る身勝手なマニアも良く聞く話です。

外国ではその土地の風習を守らないと逮捕される事もあります。日本でそこまでするかどうかは別として、少なくとも観光のマナーや日本の文化などを国内外に広くアピールする必要があるのではないのでしょうか。たとえば、観光雑誌には必ずそう言う記事を書かせてもらうとか、テレビやラジオでCMを流すとか、SNSのインフルエンサーに依頼するとか、旅行会社と協力するとか・・・観光庁の偉い方々、観光客を誘致するだけでなく、そう言う事もひとつ検討してもらえませんか！



## 歴史用語・人名の変更

テレビの歴史番組や旅番組では街 ing のまち歩きで訪ねた場所が数多く紹介されています。「日本!歴史鑑定 BS-TBS 水曜日」「歴史探偵 NHK 総合水曜日」などです。こうした番組の中で使用されている用語の中には、学校の教科書で習った用語が変更されているものがあります。新しい研究成果が反映されているためです。一例を紹介します。

**大和<sup>(やまと)</sup>朝廷** → **ヤマト王権** ヤマト王権で定着している

1970年代以降、「大和時代」が「古墳時代」に変わり、80年代以降、古墳時代の政治組織(政権)は「ヤマト王権」が適切となった。

**聖徳太子** → **厩戸王<sup>(うまやどのおう)</sup>** どちらの表記も使用されている

小学校教育では「聖徳太子(厩戸王)」、中学校では「厩戸王(聖徳太子)」に記述が変更。「聖徳太子」は死後につけられた称号であることから変更された。

**元寇<sup>(げんこう)</sup>** → **モンゴルの襲来** どちらの表記も使用されている

1274年、当時中国大陸を支配していたモンゴル帝国による日本侵攻。モンゴル帝国をイメージできるように「モンゴル(蒙古)の襲来」に変更された。ちなみに「蒙古」は「モンゴル」の中国語による音写で、「モンゴル」表記は終戦直後からとされる。

**ジンギス・カン** → **チンギス・ハン** チンギス・ハンで定着している

モンゴル帝国の建国者であり、初代皇帝のチンギス・ハンの漢字表記は「成吉思汗」。日本では「ジンギス・カン」の名前で親しまれ、料理名にもなった。現在は現代モンゴル語読みの「チンギス・ハン」で統一されている。

**鎖国** → **幕府の対外政策** どちらの表記も使用されている

江戸時代、外国との交流を断絶したわけではなく、実際には長崎や対馬(つしま)などを窓口としてオランダや中国と交易を続けていたため変更された。

**奥の細道** → **おくのほそ道** おくのほそ道が定着している

俳人・松尾芭蕉の俳諧紀行。芭蕉自筆の表題に「おくのほそ道」とあるため。作品が京都の井筒屋から出版されたのは芭蕉の死後8年目の1702年。

## 生前とは

8月はお盆の季節です。かつては太陰暦の7月15日を中心に行われてきましたが、明治期の太陽暦採用後は、新暦8月15日をお盆とする地域が多くなりました。

この世に生まれたからには人間が死を迎えるのは避けられません。臨終のときを迎えると、葬儀が行われます。そしてお葬式の最後に当家の代表の方が「生前中はたいへんお世話になりました。」と参列の方々にお礼を述べられます。しかし、この生前という言葉については、少々疑問を感じます。

『生前中というのは生まれる前という字を書く。生まれる前にお世話になったというのは、なんとなくおかしい。生きていた時にお世話になったのだから、存命中と言った方がいいのではないだろうか。そもそも、生まれる前はお世話になりましたというのはどういうことなのだろうか』と。

生まれる前はお世話になりましたというのは、一般的には理解しがたい言い回しですが、これは仏教の教えと深い関係があります。人間として生を受けることを、生まれると言いますが、仏教では、肉体が滅し浄土で仏さまに成ることもまた、生まれると言うのです。生前中とは、浄土に生まれる前、つまり、存命中ということなのです。お礼の際、存命中とは言わず生前中と言うことを含めて、挨拶される方の意味は次のように解釈できます。『ともに娑婆(しゃば 仏教用語で煩惱や苦しみに満ちた人間の世界)の苦楽をともにしてきましたが、故人は尊い一生を終えました。残念なことではありますが、臨終のそのときに、阿弥陀様の願いの中で浄土にお生まれになり、今は仏さまに成っておられます。これからは、仏さまとして、必ず私たちが慈しみの心で見守ってくださることと思います。生前中はたいへんお世話になりました。』と。

街 ing ではこれまでたくさんの寺院を訪ねて、仏教建築の神髄を見てきました。日本人には仏教の影響が強く残っていると感じますね。



# 街 ing

## 日本銀行大阪支店 見学会

日本銀行大阪支店は、中之島にある歴史的な建築物です。120 年前にベルギー国立銀行をモデルに建てられました。東京駅で有名な辰野金吾の設計です。この価値ある建物を解説付きで見学します。昼食は中之島中央公会堂の前にある GARB weeks(ガープウィークス)。川沿いにあるオシャレなイタリアンレストランです。伝統の建物と人気の味を楽しみましょう。

次回例会時、9月5日(木)までにお申し込みください。定員は12名です。

記

- 1 実施日 : 2024年10月22日(火)  
阪急茨木市駅 改札口 9時00分集合 終了は12時30分頃を予定 その後  
オプションで、北浜周辺をめぐる予定です。
- 2 経路9時06分 大阪梅田行き 準急乗車 南方で大阪メトロ口に乗り換え  
9時35分 淀屋橋着  
9時40分 郵便制度発祥地跡を見学  
10時~11時 日本銀行内部の見学  
11時30分~12時30分 昼食  
12時30分頃 1次解散  
13時~ 中之島公園のバラ園、北浜周辺の建物見学 15時頃 2次解散
- 3 参加費 昼食代 1,450円 会費より450円を補助します。
- 4 その他
  - ① 茨木市~淀屋橋の交通費 480円
  - ② 9時00分の集合時間は厳守願います。
  - ③ 日本銀行への入場には、運転免許証またはマイナンバーカードなど本人確認書類の提示が必要です。
  - ④ 日本銀行では新札への交換は行っておりません。
  - ⑤ 雨天決行。
  - ⑥ 申し込み後欠席される場合は、事前にご連絡願います。
  - ⑦ 連絡先 阪田まで 072-627-3480

以上

## 日本銀行大阪支店

日本銀行は、明治 15 年（1882 年）10 月に東京で設立されました。それまで民間銀行に認められていた紙幣発行権を日本銀行に一本化するなど金融制度の安定化を目指しました。2 か月後の 12 月に日本銀行大阪支店が開設されました。

現在の大阪支店は中之島にあります。開設以来 2 度、移転を行っています。開設当初は、淀屋橋近辺にある現在の大阪倶楽部の場所に開設されました。この店舗は敷地が小さく、金庫のための十分なスペースがないなど営業上の不便が多かったため、開設から 2 年後の明治 17 年（1884 年）に、現在の中之島三井住友銀行の場所に移転しました。その後、経済の発展とともに支店の事務量が増えていったため、2 度目の移転を行うことになりました。その結果、現在の地が選定され明治 36 年（1903 年）に移転しました。御堂筋に面している日本銀行の建物は、現在旧館と呼ばれており、その時に建築されたものです。日本銀行本店の旧館と同様、明治を代表する建築家である辰野金吾の設計によるものです。現店舗のある地は、江戸時代には水戸藩や島原藩などの蔵屋敷があった場所であり、明治に入り郵便役所（現在の郵便局）となったあと、五代友厚の私邸などを経て今日に至っています。五代友厚は大阪商工会議所、大阪証券取引所や大阪公立大学を設立したことで知られています。

大阪支店の店舗は、旧館の復元・改築工事と同時に行われた新館の建築を経て、昭和 57 年（1982 年）に現在の姿となりました。築後 80 年を経て老朽化が進んでいた旧館は、もともと取り壊される予定でした。しかしながら、当時の大阪市民や文化庁からの強い保存要請を受け、可能な限り面影を残す形で改築工事が行われました。御堂筋側から見える東、北、南側の外壁のほか、中央のドームとその両側に配置された三角屋根は、往時の姿をとどめています。新館の設計に際しても、屋根や窓回りには旧館と同様の銅板を用いるなど、旧館との調和が重んじられました。このほか、新館正面入り口の窓には反射ガラスを使用し、旧館のドームが美しく映えるような工夫が施されています。

## 外来種（その2）ブラックバス

吉田 恭三

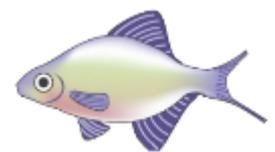
終戦直前までの幼少期を大阪市内十三の淀川べりで住まいしていた。遊びの場はもっぱら

淀川の堤で、夏の夕暮れ時には下手履き、ゆかた姿の人々が納涼のため賑わい上空にはオニヤンマ等の多くのトンボが乱舞し素手で捕えることさえ容易でした。又早朝には天秤棒を担いだ物売りの男性



が発する「カニー、カニー」の音が街路に響きわたり母はよく生きたモズクガニを買って夕餉の貴重な一菜に添えていました。当時淀川の下流では多くのモズクガニが生息し、食糧難の当時としては貴重な栄養源でした。

戦況が悪くなり空襲を避けて茨木の実家に帰り、中学、高校時代には「母なる川」と慕われている淀川が懐かしく思い出され、淀川の生き物、特に魚の生態を調べようと登校前に自転車で鳥飼の淀川右岸に行きモンドリ（魚捕獲の容器）を仕掛け魚を捕獲し生息状況などを調査しました。当時の淀川は水が清く澄み特にワンドと呼ばれる川岸の水たまりには小型のフナやモロコ、エビ、ウナギなどが多く生息していました。捕獲した魚はデーターを採った後放流するのですが当時としても珍しいイタセンパラ、アユモドキ、ツチフキを捕獲し記録に留めることが出来ました。イタセンパラはタナゴ科で体長10センチほどの美しく殊に繁殖期のオスは腹部が赤紫色の婚姻色になり実に見事でした。アユモドキはドジョウ科ですが姿がアユに似ているところから、かく命名されましたが行動はドジョウに似ています、ツチフキは主に砂底で行動しカマツカに似ています。



イタセンパラ



アユモドキ

一方昭和30年代に入り戦後経済の復興、高度経済成長の歩みと共に各河川は工場排水生活排水の受け皿として急増に汚染が進みそこで生息していたこれらの魚は全く姿を消し、先ほどのイタセンパラやアユモドキの2種類は絶滅危惧を懸念して天然記念物に指定されてしまいました。

昭和40年後半に入りやっと水質汚濁防止法が制定され工場排水、下水処理水の国の規制が厳しくなり徐々に汚染が減り多くの魚が帰ってくるようになり最近ではイタセンパラが淀川で見られるようになりアユモドキも淀川の上流桂川では生息し、ツチフキも令和に入り淀川で生息が確認されました。

かくして淀川流域の魚は戦前の状態に戻ったのですが魚にとっては一難去って又一難、1925年に芦ノ湖で放流された北米原産の獰猛なブラックバスやブルーギルなど大型（30～50センチ）の外来種の魚がその後拡散して多くの河川、沼湖に棲みつき日本固有種の魚を餌として猛烈な勢いで繁殖し淀川でも天敵となり、折角帰ってきた魚を食い荒らしているのが現状であります。



ブラックバス

現在は特定外来生物に指定され放流は禁止されましたが釣り人にとってはルアーフィッシングの格好の対象魚で愛好者も多く全面駆除には難しい側面もあるようです。最近是人々の愛玩する動植物の種類が多様化し輸入により安易に手に入る事が出来、それが自然界に一旦放たれると日本の固有種の天敵となり猛威を振るう現象が各地で増えています。飼育者のモラルの向上と行政の管理の充実が待たれています。

## 次回のイベント

街歩き 10月22日(火) 日本銀行大阪支店を見学 阪急茨木市駅 9時集合

### —— 次回『街ingいばらき』例会のご案内 ——

- 日時： 令和6年9月5日(木) 14:00～16:00  
場所： 川本本店 茨木市上泉町 6-29  
議題： 1. 10月22日(火)の日本銀行大阪支店見学  
2. 11月26日(火)の下賀茂周辺散策  
3. 12月の忘年会 他

## 『街ingいばらき』とは？

茨木のまちづくりを考える市民グループです。といってもあまり硬いことではなく、月一回の例会や年5回程度の街歩きを行っています。

参加資格は問いません。入会に関心のある方は、お問い合わせください。

とりあえずのご見学や、イベントの単発参加も歓迎します。

入会金 1,000円 会費 年間2,000円(一か月170円)



### « 編集後記 »

- 8月8日(木)宮崎で震度6弱、翌9日(金)には神奈川で震度5弱の地震が発生。気象庁は、巨大地震注意情報を発表しました。茨木市においては、震度5弱以上の地震を観測した場合には、避難所を開設することになっています。
- 大阪北部地震から6年が経過、まだまだなのか、そろそろなのか。飲料や食料品の備蓄、家族との連絡方法など日ごろから災害時の状況をイメージしておくことの重要性を感じます。

### « 編集・発行 »

阪田 浩 〒567-0881 茨木市上中条一丁目10-22

Tel/Fax 072-627-3480 e-mail: ibarakisakata@crux.ocn.ne.jp

街ingホームページ : <http://wwa.machiing-ibaraki.com/>

ホームページは杉田さんが作成されています。ときどきはのぞいてみてください。

2024年8月現在での訪問者は10,290 <前月比20の増加> となっています。

